

# Letter from Samoa

サモア通信 13th  
Jan.2019  
豊橋南高校  
青年海外協力隊  
松川博明

Talofa!!Happy new year!!あけましておめでとうございます。2019年第1号はサモアの宗教と、それに関する文化や風習について綴っていきます。

## ○大多数はキリスト教

サモアは国民の約95%がキリスト教です。キリスト教と言っても、多くの宗派が存在しています。エファカサ、カトリック、メソジストなど10以上の宗派があります。その他の5%はイスラム教、モルモン教が多く、基本的にどんな宗教もお互いの考えを尊重する姿勢が見られます。学校行事にもイースター祭（キリスト復活祭）など宗教に関する行事が度々行われています。

## ○強い信仰心

1800年代にエファカサが伝来し、疫病や自然災害の際に、キリスト教を信仰していた国民が救われたという逸話も残っており、宗教に対する信仰心はとても強いように感じられます。学校では毎朝Bible Readingと呼ばれる聖書の一節を共有する時間が設けられていたり、時間割に「Christian Education」という時間が設けられていたりもします。学校においても村においても宗教を中心に生活が成り立っているように感じます。

## ○宗教的な慣習

日が暮れる頃、村を歩くと村の至る所からお祈りの歌や祈りを捧げる言葉が聞こえてきます。サモアでは毎晩、神に祈りを捧げる時間があります。イメージとしては仏教でいう念仏を家族で唱えているような感じです。また、キリスト教徒にとって日曜日は神聖な日とされています。午前中に教会でお祈りが行われ、その後家族で盛大なごちそ

うを食べます。ごちそうといっても一家で一品を大量に作り、ご近所さんとシェアすることで、ごちそうっぽくなる感じです。そして神聖な日ゆえに、買い物、洗濯等の活動は一切禁止です。ですので、日曜の午後は村が眠ったかのように自然の音しか聞こえない静かな時が流れます。

## ○異なる文化・宗教に対する自分の在り方

自分はカトリック信仰の家族のもとでホームステイをしています。カトリックの風習として、毎朝6時から1時間程のお祈りを教会でするといものがあります。信仰心が大変強い一家なので毎日早朝のお祈りをしてから仕事や学校などに出かけます。自分も家族の風習を大切にしようと試み同行しましたが、1ヶ月で諦めました。しかし、日曜日は特別に尊重すべき日であるため、毎週家族と同行して教会に行っています。自分のスタンスとしては、「相手の文化を全て尊重するが、全て肯定することは難しい」という感じです。相手のことを尊重し理解しようと努めます。しかし、日本人としての信念も大切にして自分の行動に折り合いをつけています。今後日本に帰っても、まずは相手のことを尊重し理解しようと努めた上で、自分の意思決定や行動をしていくことが大切なのはとサモアに来て改めて感じるようになりました。それでは今年もよろしくお祈り致します。Fa soifua.

